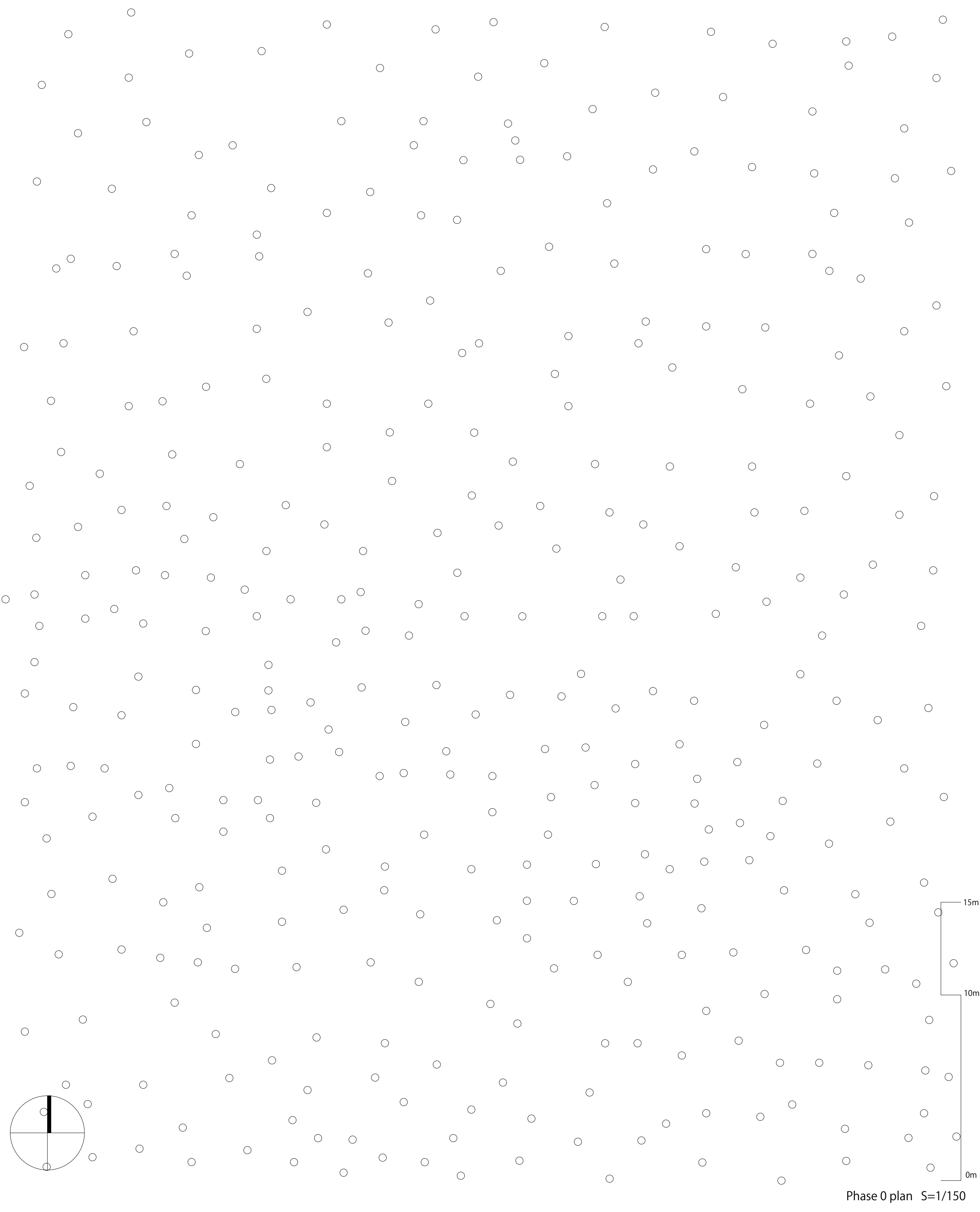




Concept

和歌山県田辺市鮎川の敷地をスタート地点として、人・建築・森の大きな循環をデザインする。

15人で構成された間伐を行い、家具・雑貨を制作する集団（通称・wakayama×Exile=Wakaxile）は間伐 を繰り返し、和歌山の山をまわる。

Wakaxileが通った後にはその土地土地の記憶の器がつくられる。

記憶の器を産み落としながらWakaxileの旅は続く。

Long Ring Long Land。

間伐材をキーワードに生まれた大きなRing。

Long Ring Long Land。

つづいてく。

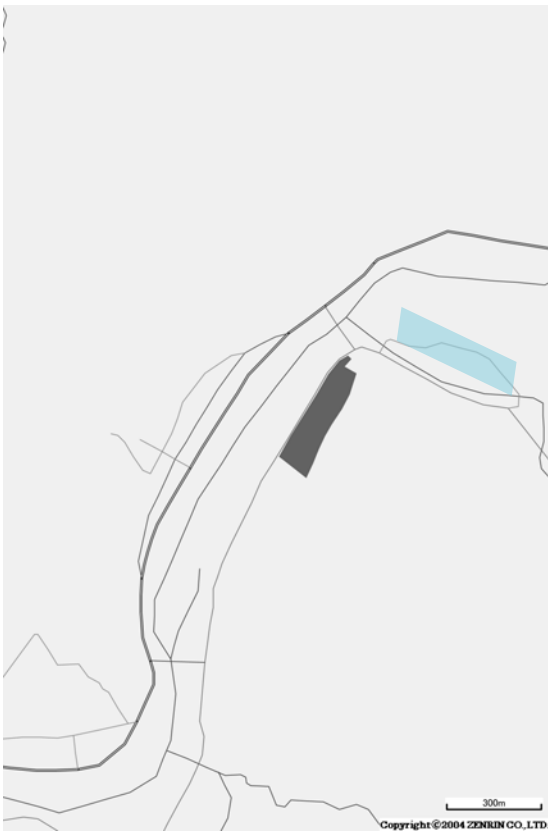
Long Ring Long Land。

人・建築・森のあるべき姿。



Site & Problem

Site



敷地は和歌山県田辺市鮎川。

周囲を杉・桧の人工林に囲まれた場所で、近くに小学校、中学校がある。

この地をスタートとして、人・建築・森の大きな循環が始まる。

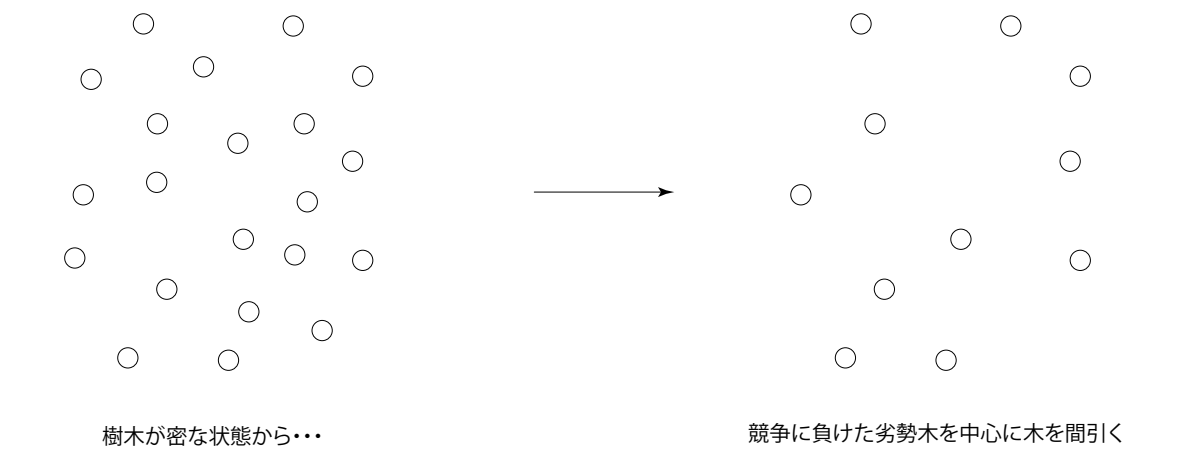
Problem

和歌山県田辺市は森林率が85%、その内人工林の割合が80%を超える森に囲まれた街である。

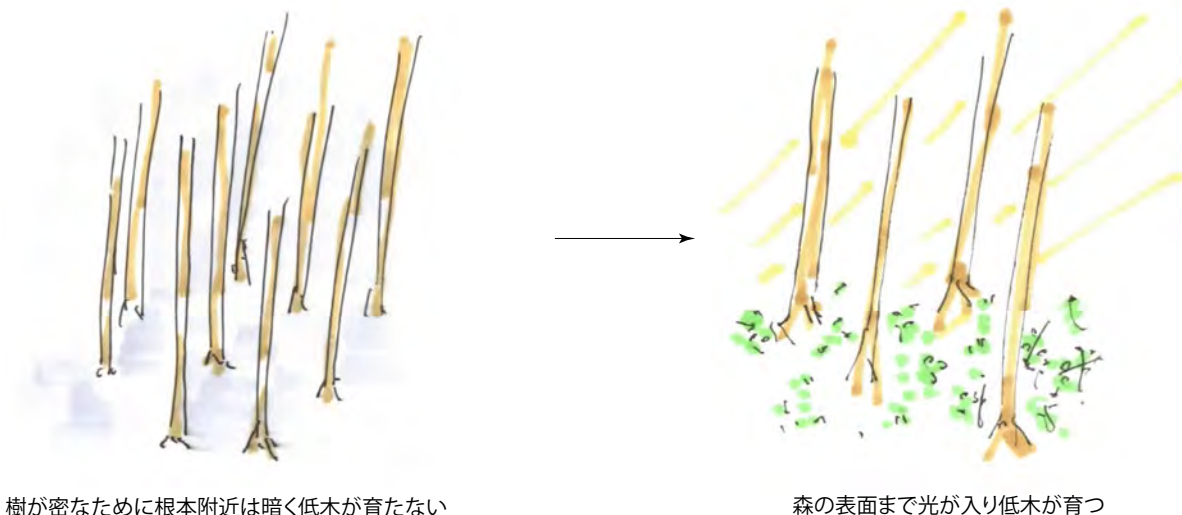
人工林の維持には、森に光を入れ、樹木の生長を促すために間伐が必要であるが、間伐の際に生じる間伐材の積極的な利用価値が見つけられない為に、間伐が滞り山の荒廃が進んでいる。

この問題は、戦後の高度経済成長に伴う、木材需要の急速な増加、植林の結果であり、和歌山県だけでなく、日本全国に及んでいる。

間伐の意味と意義



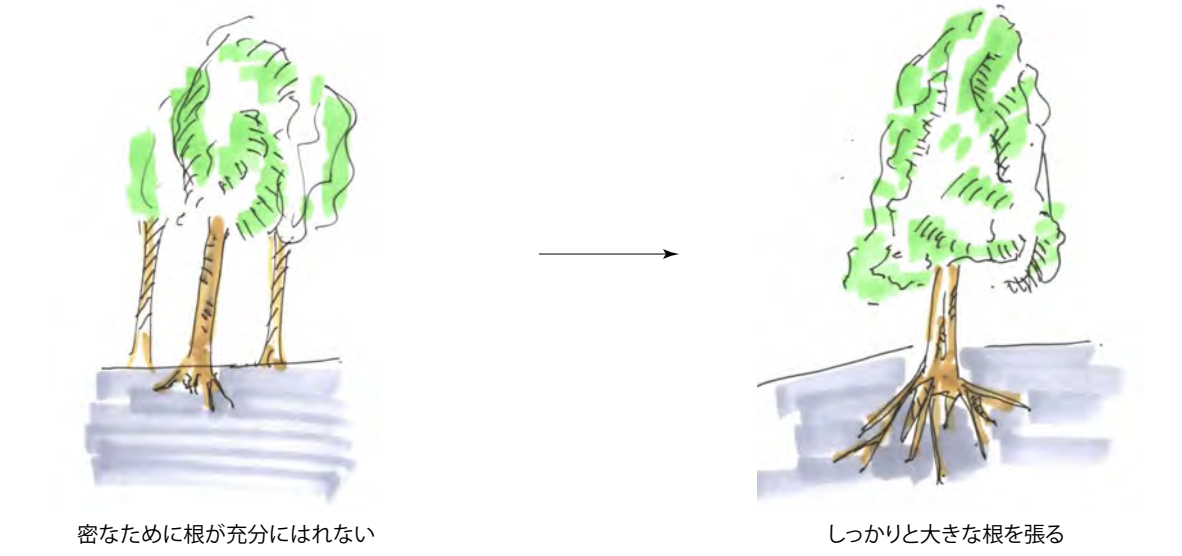
樹木の生長に伴って混み合ってきたが主伐には至らない森林で、樹木の生育を促すために間引くための伐採のこと。主に、人工林や里山など人の手が入った天然林で行われる。



樹木の足下に光が入り、低木の成長が促される。

三重県の速水林業で行われた調査によると、「天然の広葉樹林の植物数は185種でしたが、同じ地域のヒノキの人工林では243種も確認できました。ヒノキの下に豊富な広葉樹や草が生え、シカやイノシシ、タヌキなどの足跡も多く見つけられました。虫も多く、その虫を狙って鳥もたくさん生息していました。適切に管理された人工林は、生物多様性に優れているうえ、美しい景観を保てるのです。」という結果が出ています。

つまり、誰の手も入っていない天然林の森よりも、人の手が入った人工林の方が豊かなのである。



根をしっかりと張ることによって山崩れ、土砂の流出、なだれ、洪水などの自然災害を防ぐことができる。

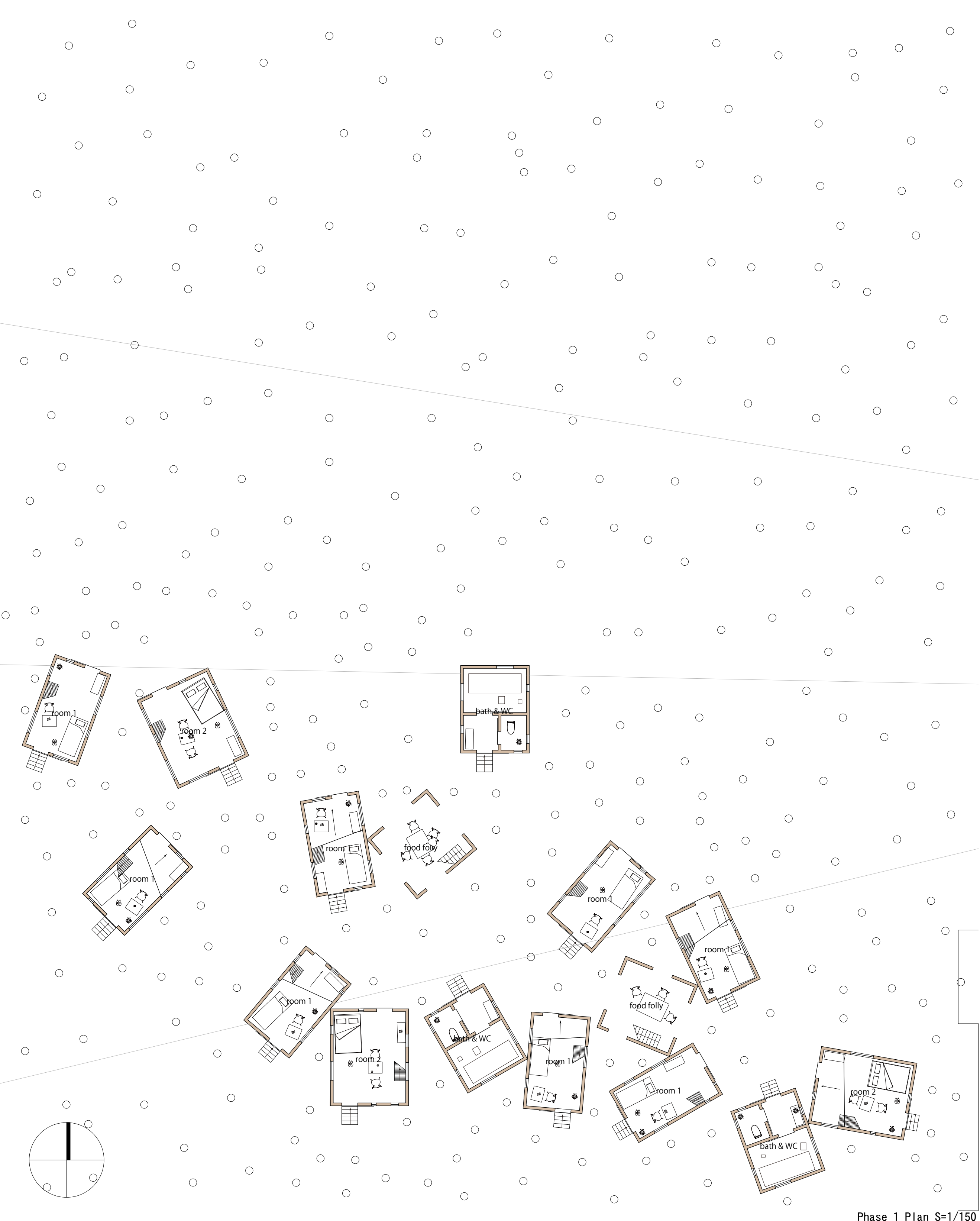
Solution

間伐と家具・雑貨の製作を行う集団（通称・Wakayama×Exile=Wakaxile）を組織することで、間伐を行い、間伐材の積極的な利用価値を見つける。

しかし、それだけでは1次的、または1箇所だけの解決となってしまう。

よって、今回はWakaxileを周期的（50年周期）に移動させながら間伐を行うことにより、継続的な間伐を行う。

Phase 1 start ～間伐、家具・雑貨制作集団の発生～

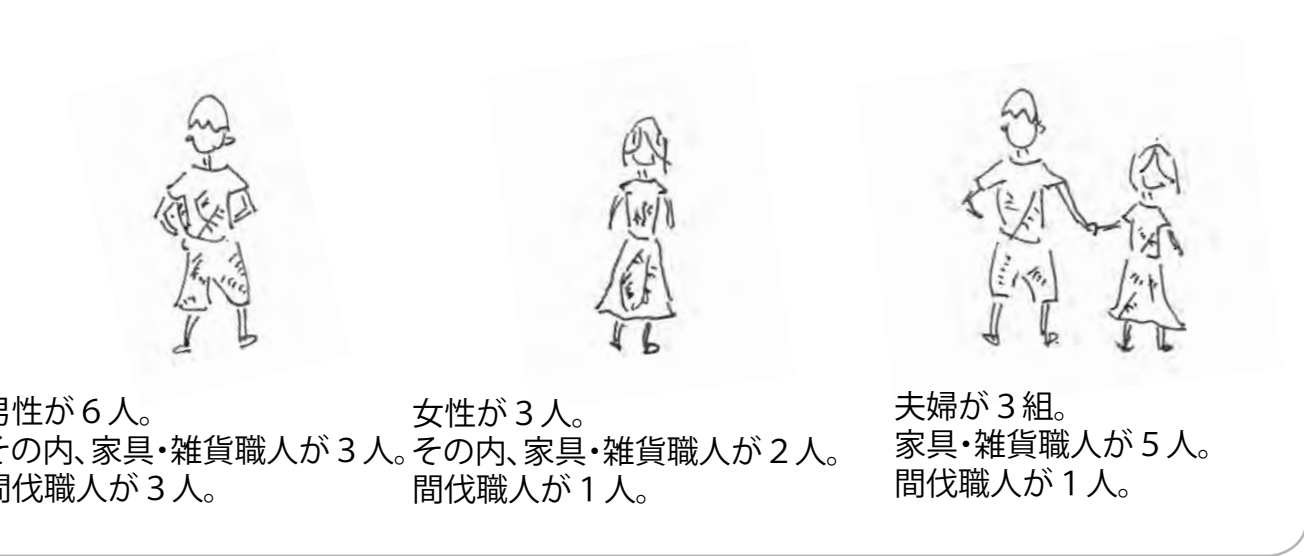


間伐、家具・雑貨製造集団（通称・Wakaxile）

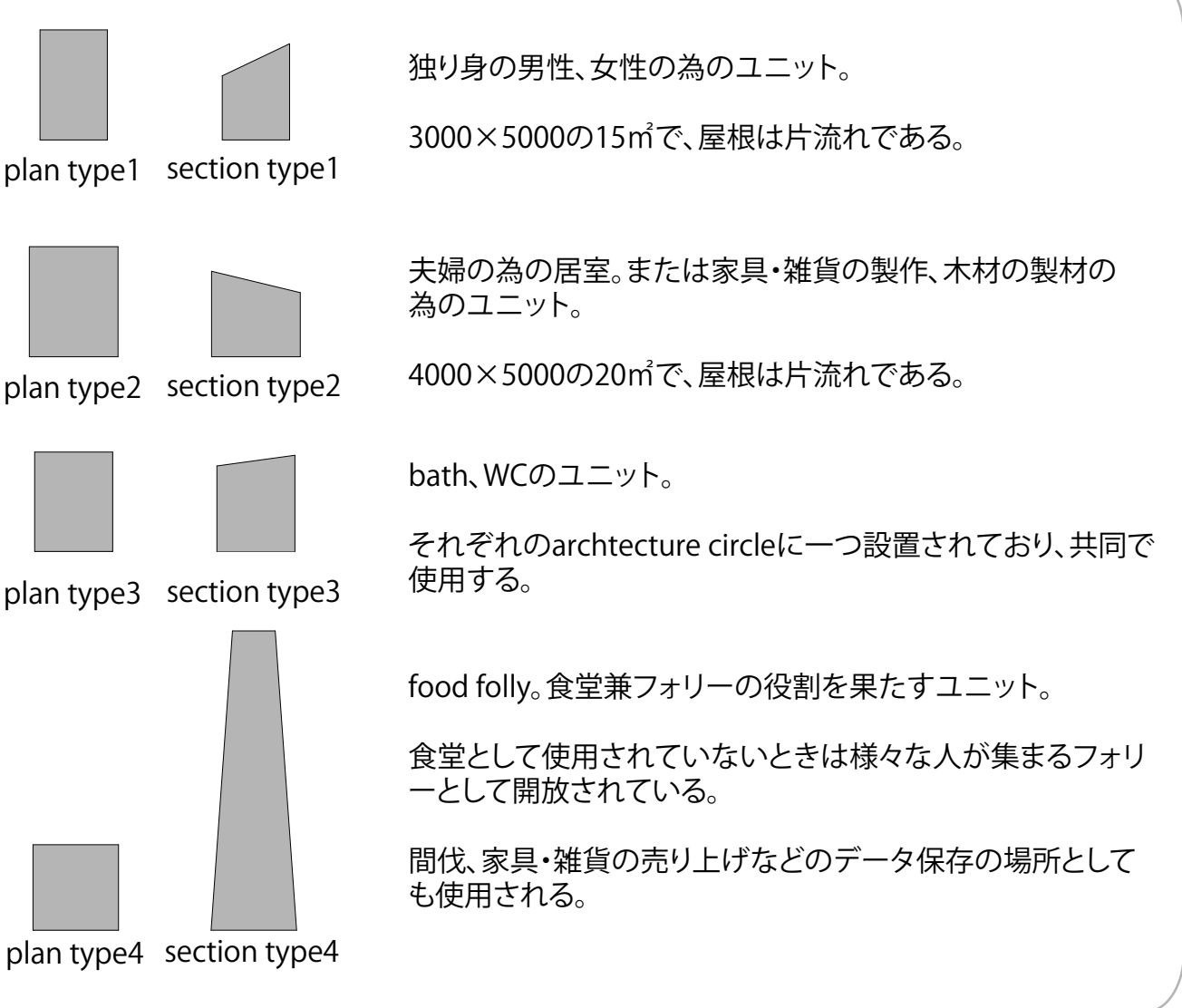
職業別にみると・・・



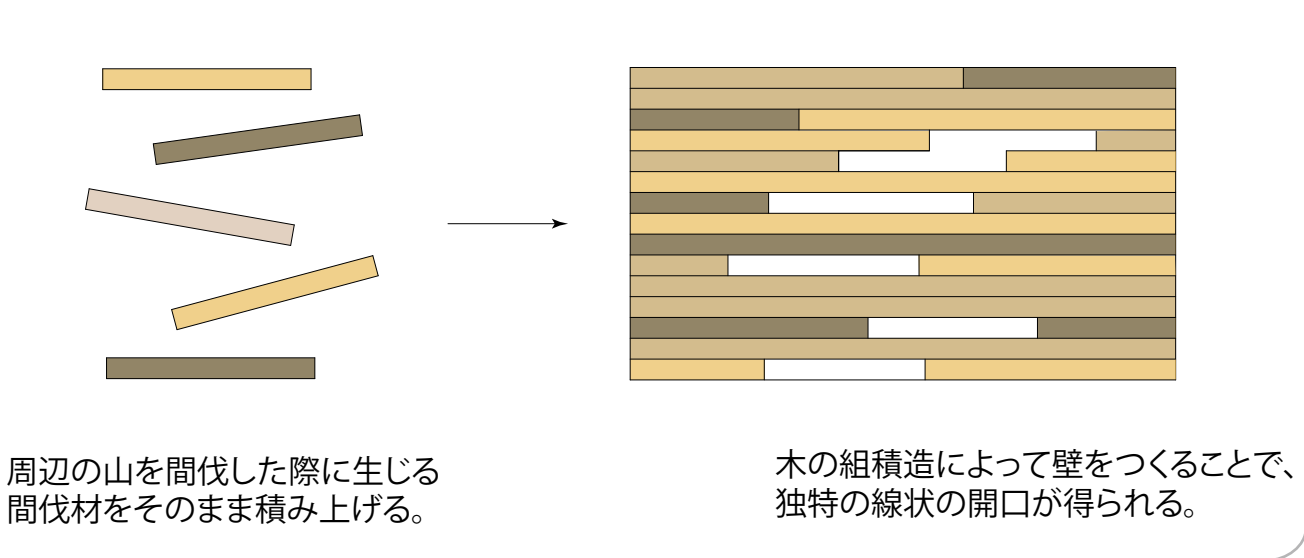
男女構成比別にみると・・・



個々のユニットについて・・・

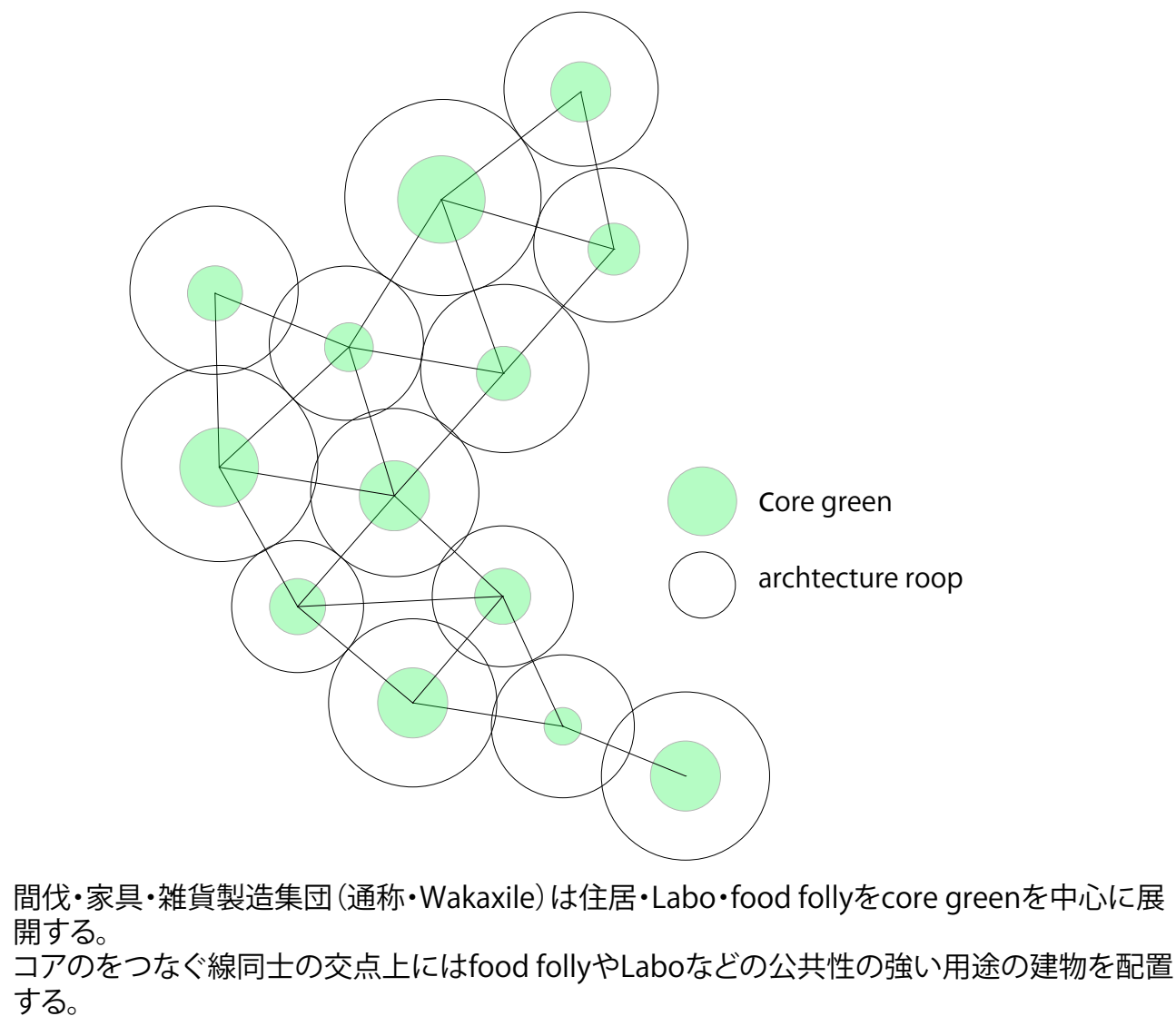


構造について・・・

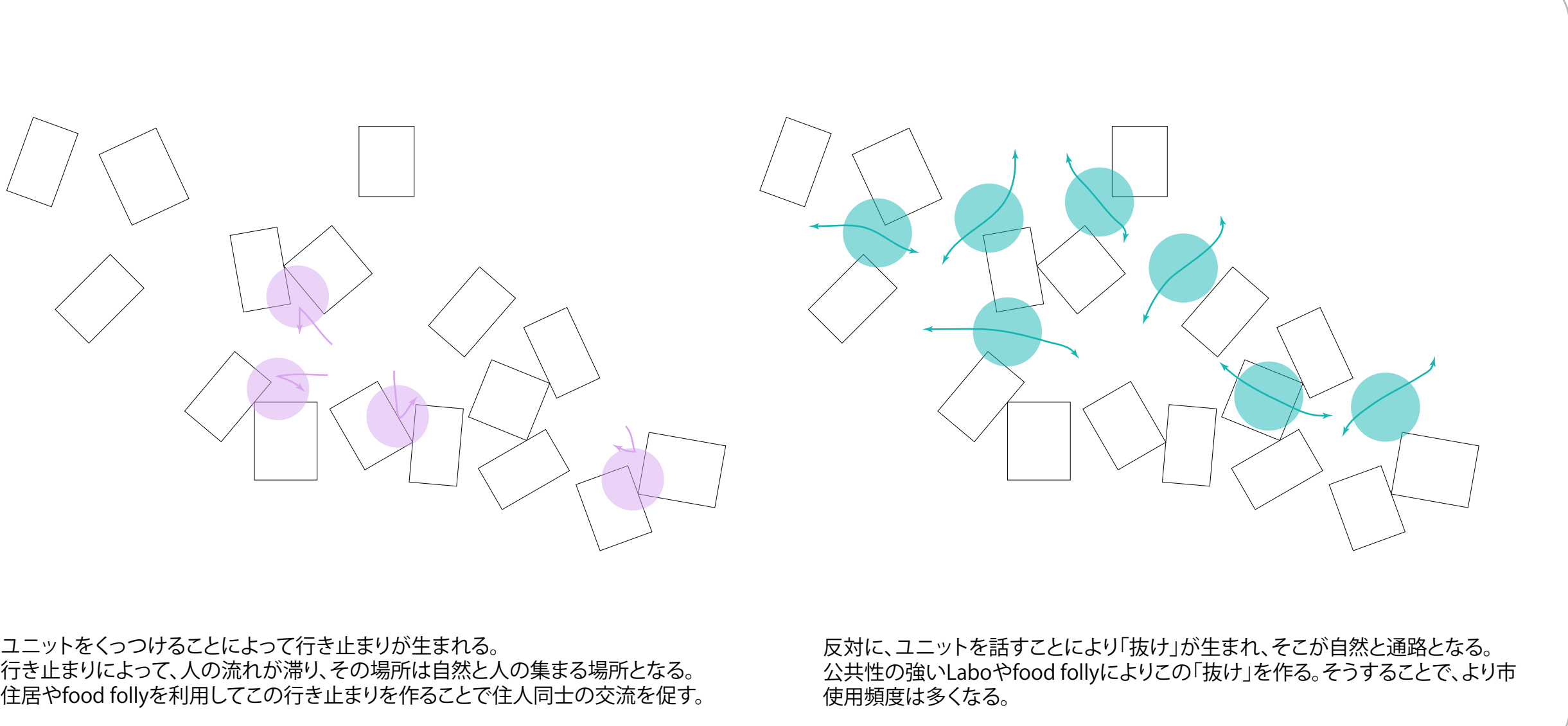


diagram

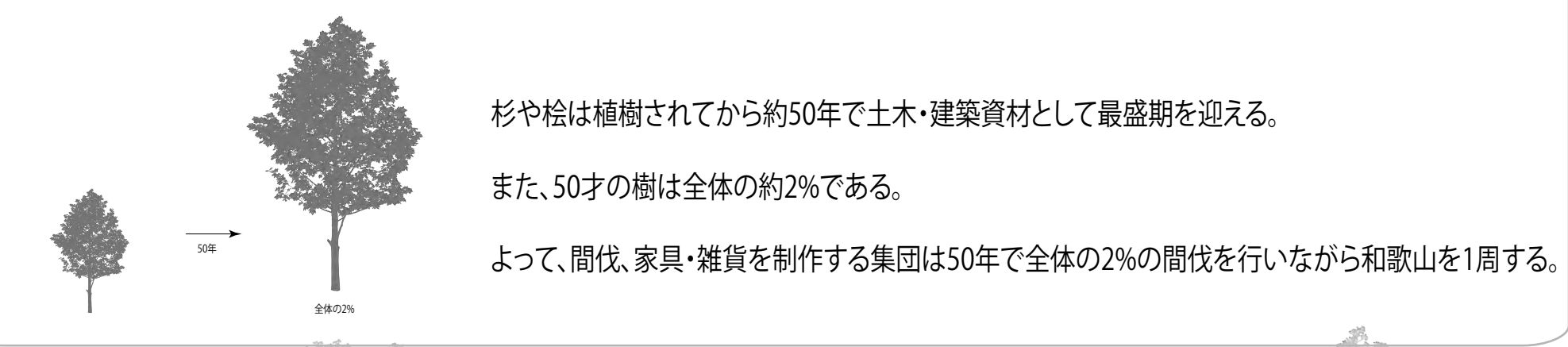
展開のdiagram



配置のdiagram



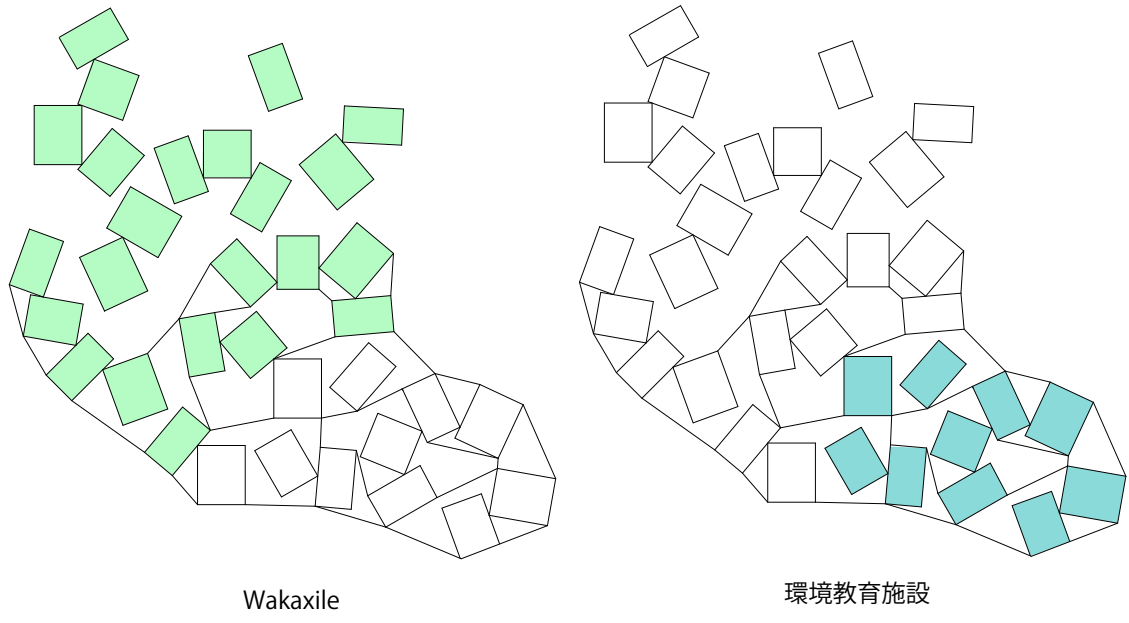
周期のdiagram



Phase 2 progress & chage～進行と変化～

Program

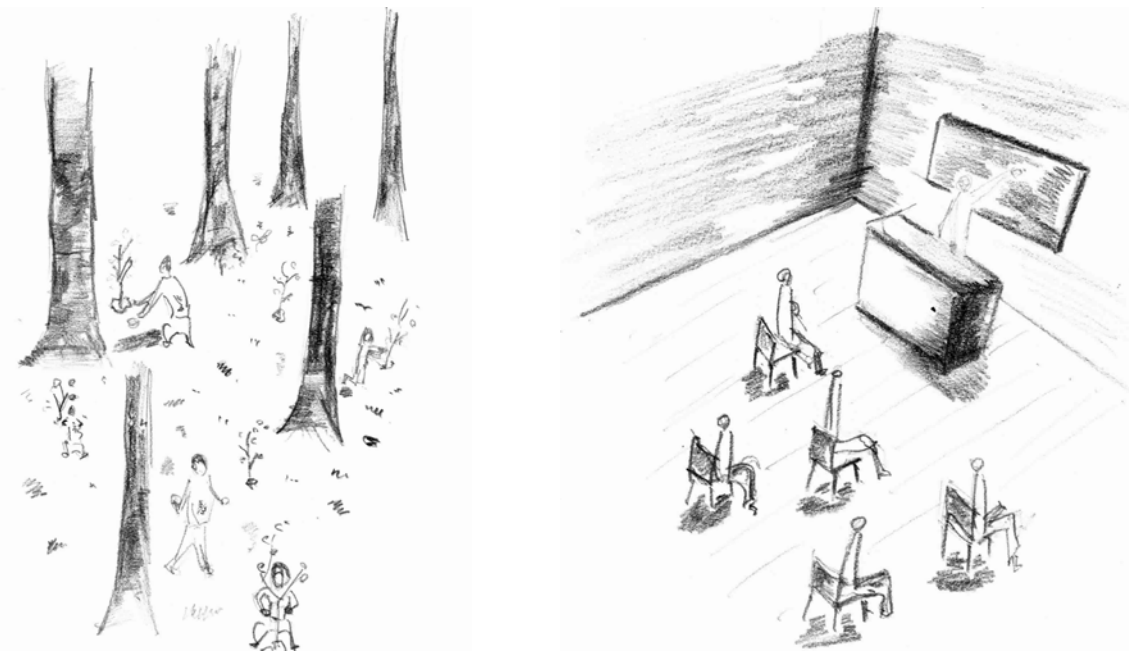
用途の移行



間伐、家具雑貨制作集団 (通称・Wakayama×Exile=Wakaxile) の進行に伴い、Phase 1でWakaxileの住居・Laboであった建物は環境教育施設として利用される。Wakaxileが実際に間伐を行い、家具・雑貨を製作することによる短期的な環境教育から環境教育施設による長期的な環境教育への移行が行われる。

環境教育施設

Wakaxileによる短期的な環境教育から環境教育施設による長期的な環境教育施設へと用途は移行する。住居は宿泊施設に、LaboはLecture roomへと用途変更を行う。この教育施設の管理は夫婦2人でを行い、2人はここへ住み込みながら環境教育を行う。

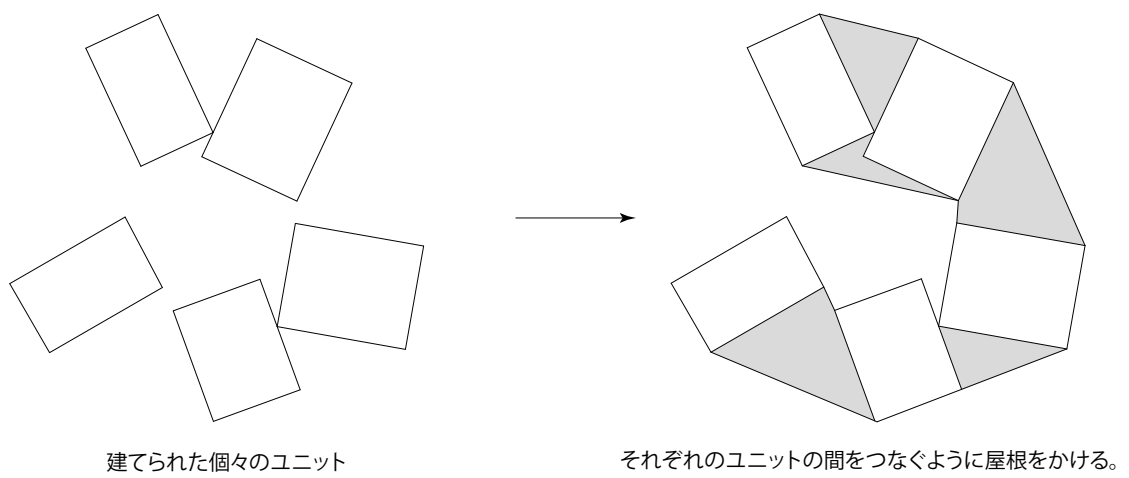


環境教育施設では1泊2日での環境教育プログラムを用意し、間伐を行った場所への植樹、Lecture roomでの講義が行われる。

間伐後、植樹を行うことによって樹木の高さがそろわず、様々な高さの木々が存在する。そうすることで森は豊かになる。

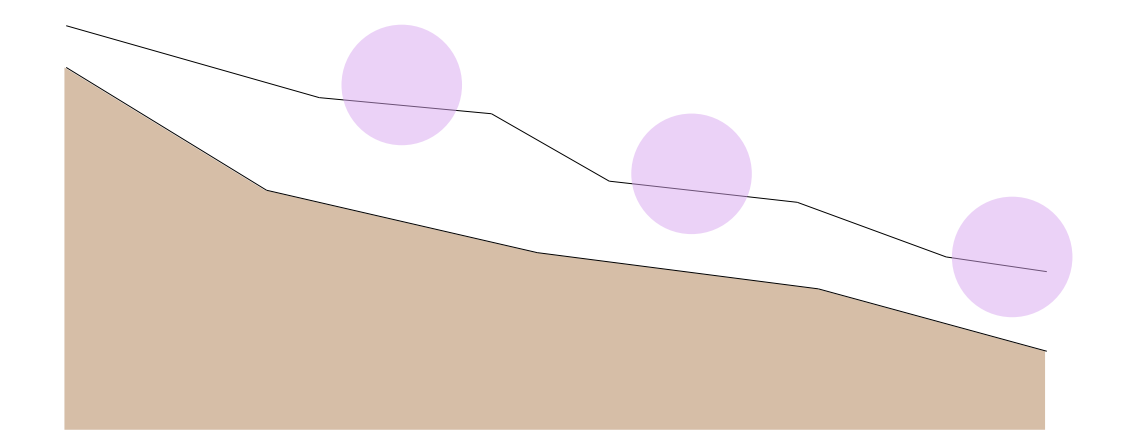
また、植樹や森の中への宿泊といった実体験による経験は本や講義で学ぶよりもより直感的に森を知ることが出来る。

屋根のつながり



屋根をかけることで屋根と「下」と屋根の「上」にアクティビティが生まれる。

住居とLaboのユニットをつなぐように屋根をかけることでユニットの間には半外部空間が生まれる。そこでは住人達が洗濯物を干したり、会話を交わす。そこはLaboで出来たばかりの家具で溢れる。屋根のつながりで人がつながる。

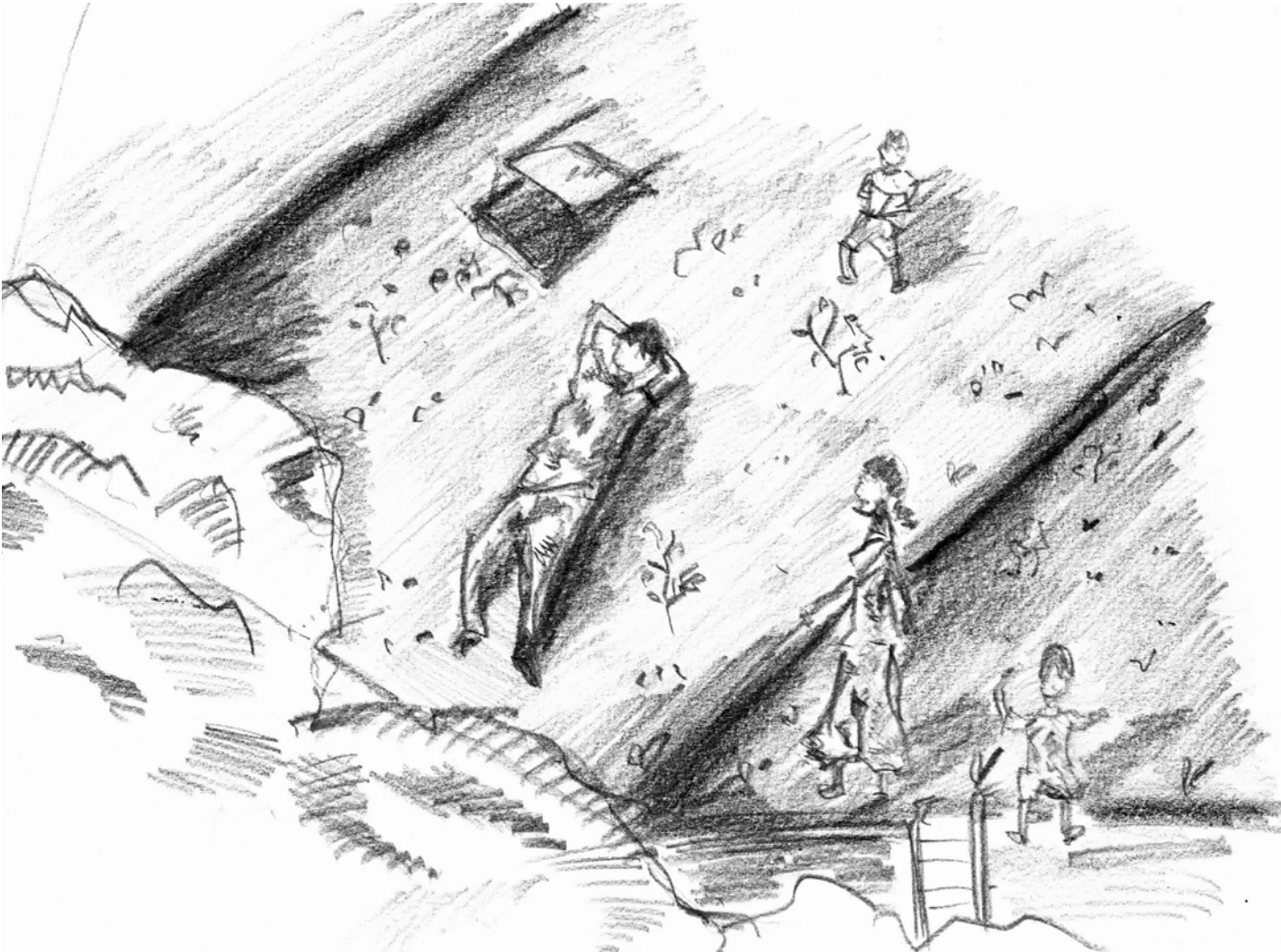


斜面が急な場所では屋根によって所々にゆるい傾斜が造られ、その場所が生活者のアクティビティの中心となる。屋根には個々のユニット、中庭からアクセスできる。

Activity



屋根の下の外半外部空間のアクティビティ



屋根の上でのアクティビティ

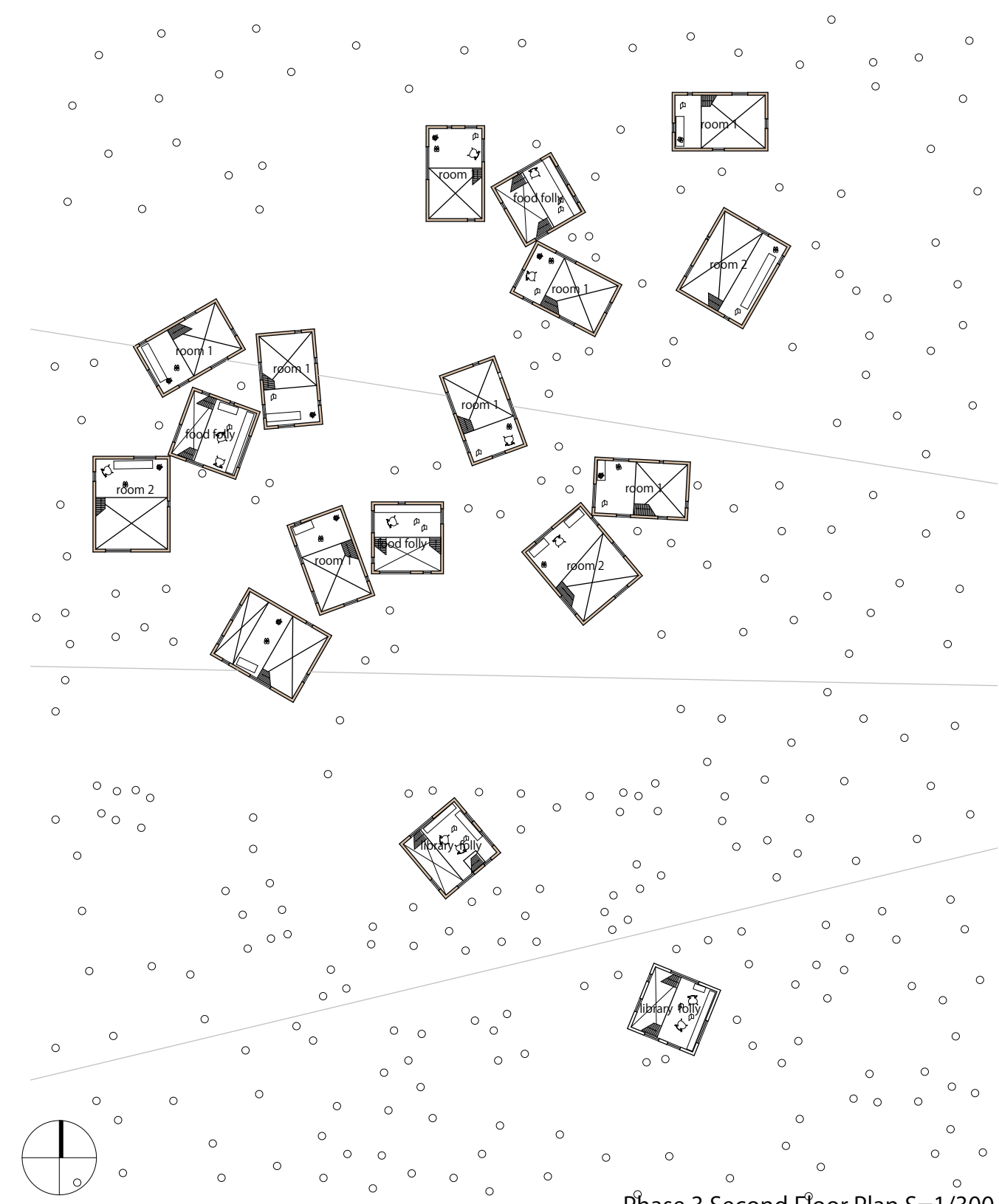
ユニットの間にできた半外部空間ではユニットから生活がにじみ出す。お母さんが洗濯物を干し、子供達は走り回る。住民達の交流は促され、生活は豊かになる。

屋根の上にもまたユニットから生活があふれ出す。お父さんがひなたぼっこをする横をお隣のお姉さんが歩いてく。へりに足をかけて遊ぶ子供。屋根は少しずつ緑に浸食されていく。

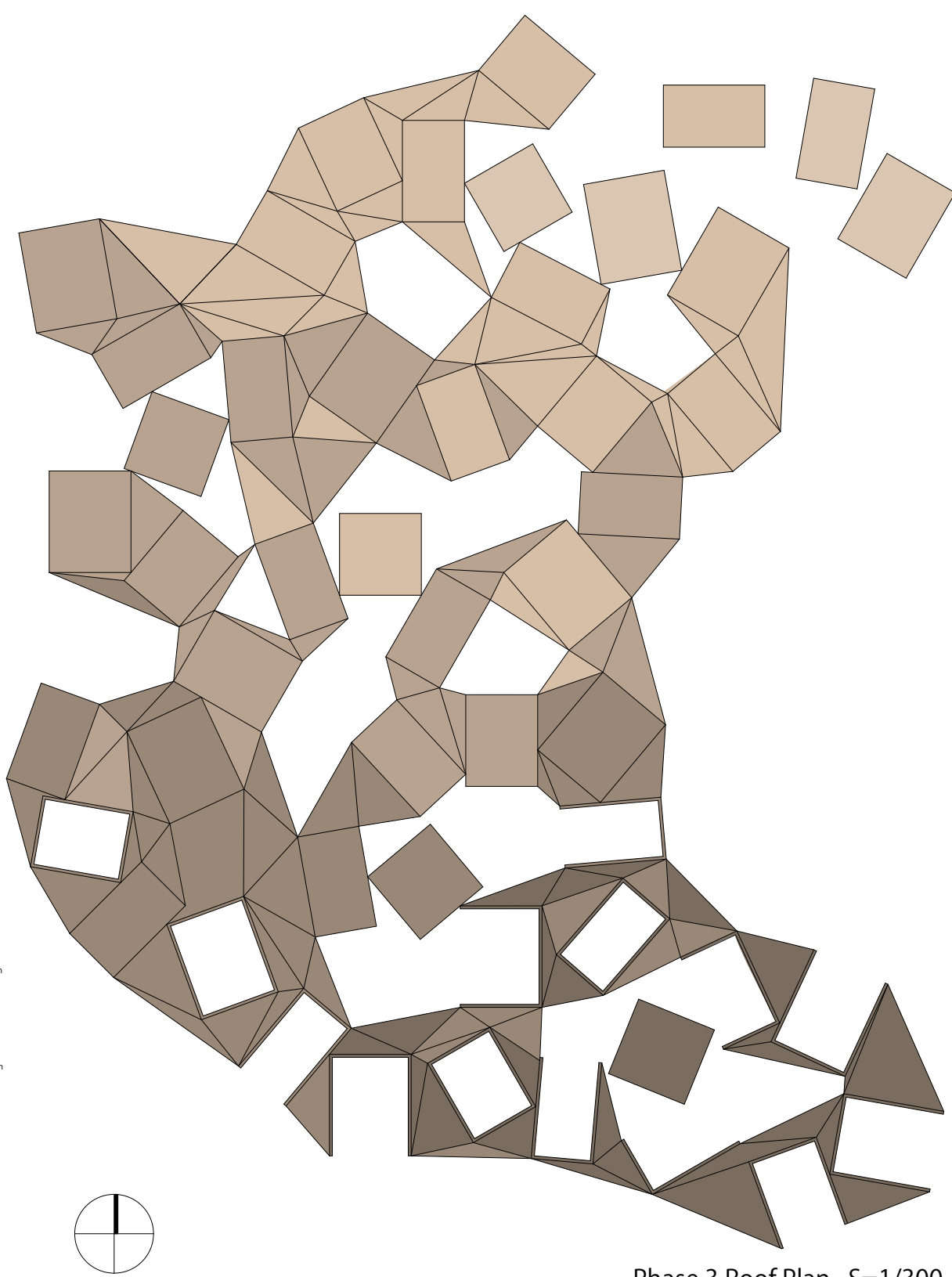
Phase 3 stay end ～滞在の終わり～



Phase 3 Plan S=1/150



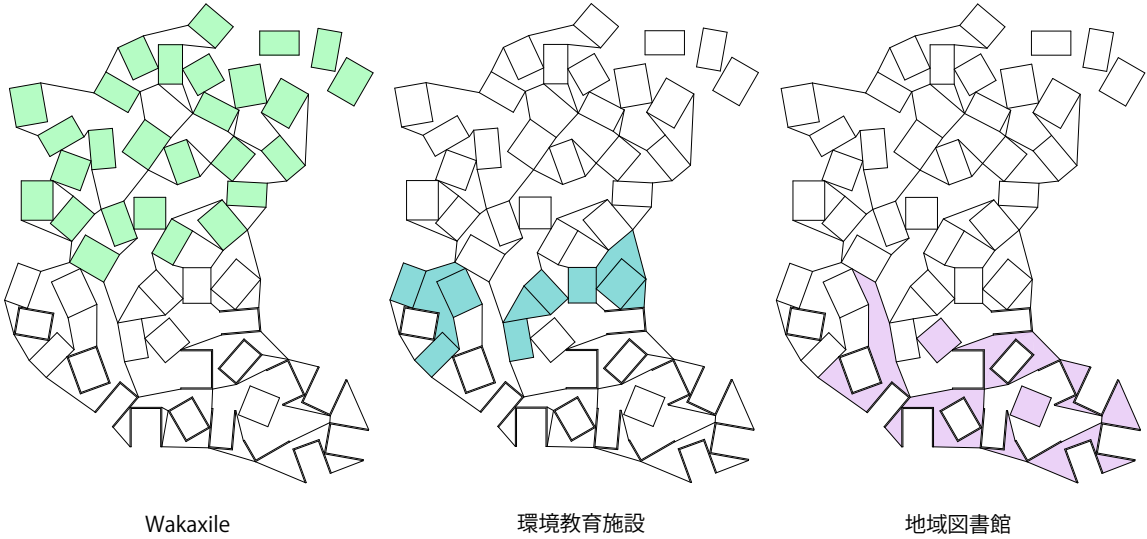
Phase 3 Second Floor Plan S=1/300



Phase 3 Roof Plan S=1/300

Program

用途の移行



Phase 2からさらにWakaxileが進行したPhase 3ではWakaxileの住居・Labo・food folly、環境教育施設に加えて、地域の人々に開かれた地域図書館の用途が加わる。

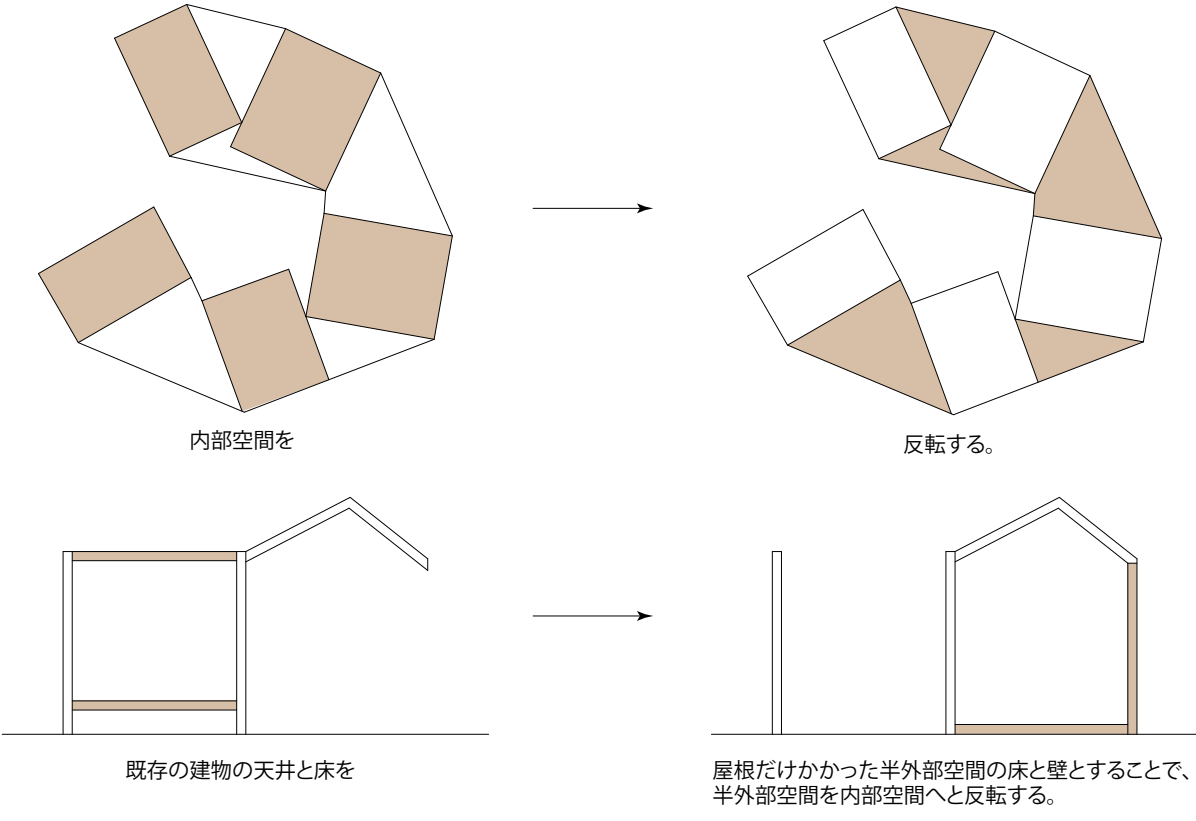
food follyが「図書の塔」となり、地域の図書館で捨てられる本をここに蓄える。

それぞれ思い思いの場所で本を読む。

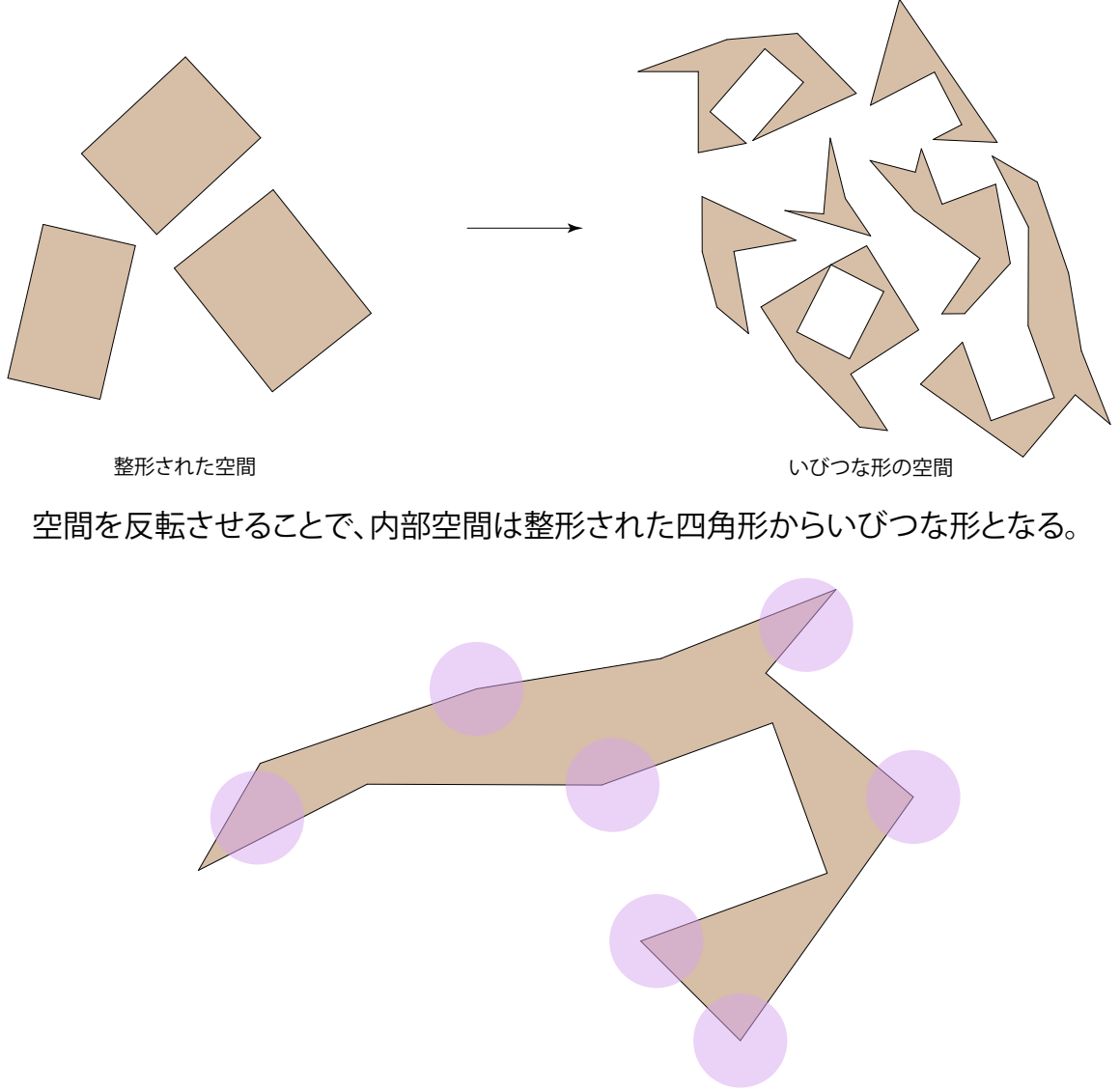
その場所に地域の人々の記憶は集積されていく。

空間の反転

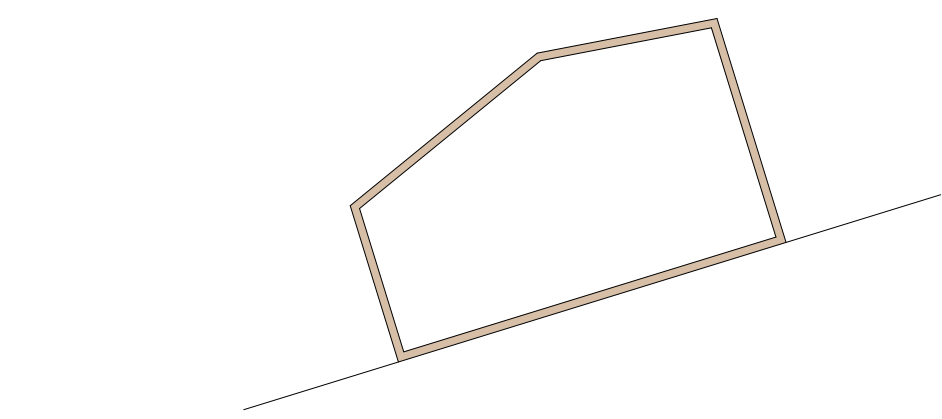
Phase 3では用途の変更に伴い、内部空間と外部空間を反転する。そうすることで、用途に応じた空間を得ることが出来る。



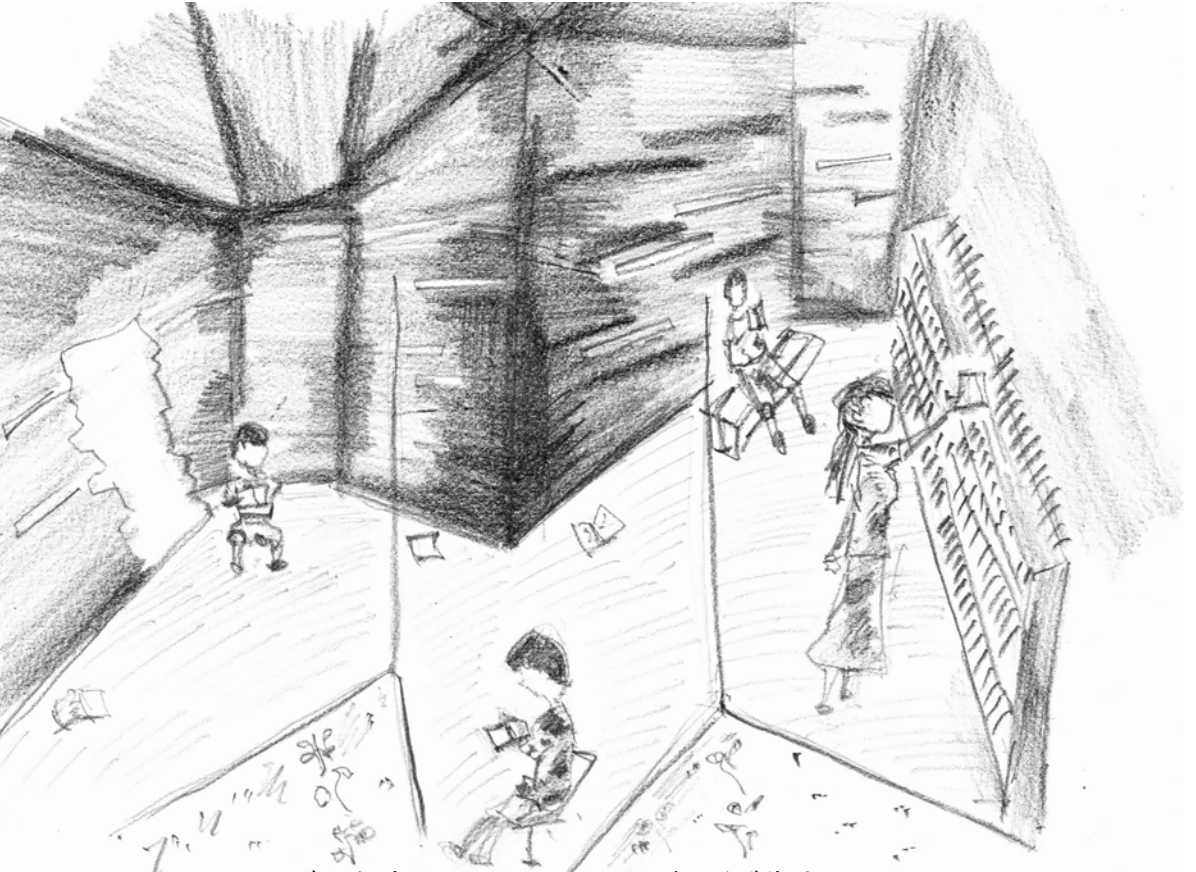
間伐、家具・雑貨製作集団 (Wakaxile) が使用していた住居やLaboの天井と床を半外部空間の壁と床とすることで、内部空間であった場所を外部空間に、半外部空間であった場所を内部空間にする。



いびつな形となった空間には隅的空間が生まれ、訪れた人はそれぞれの場所で図書を読む事が出来る。

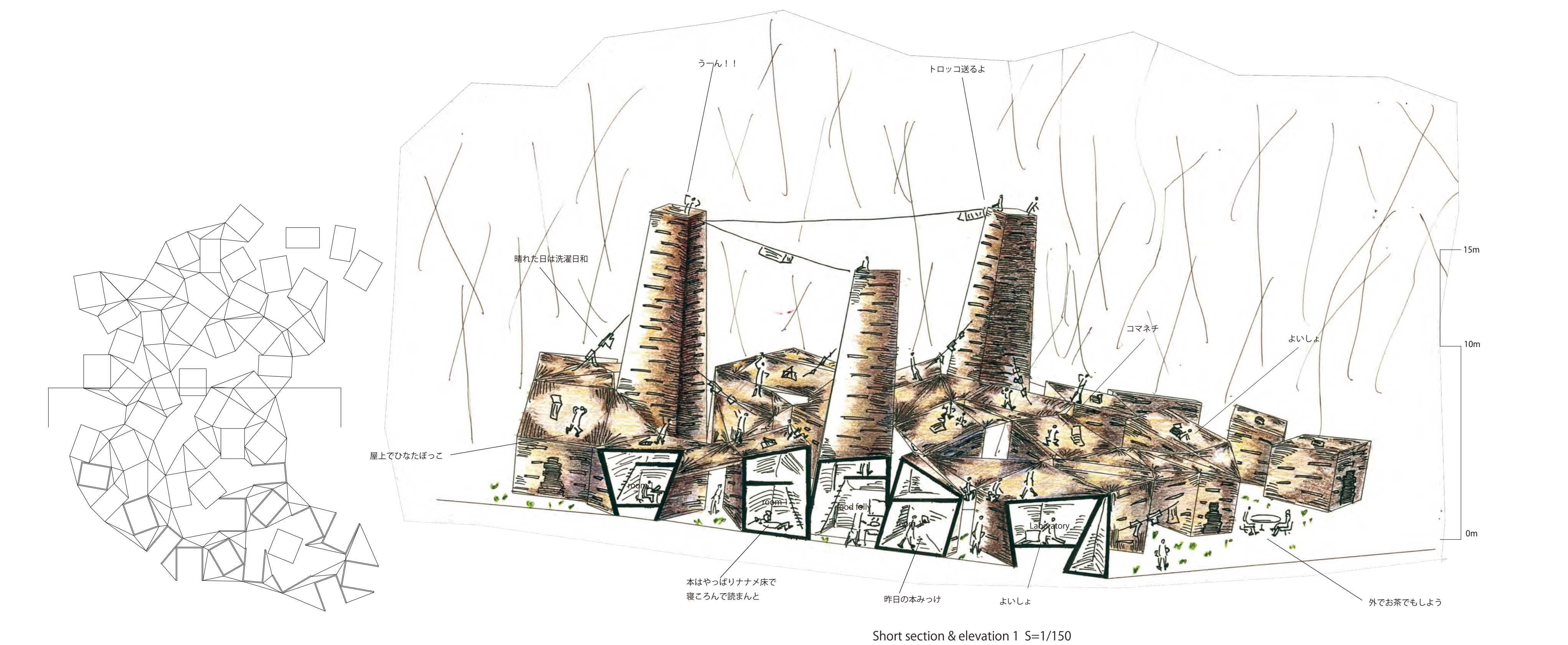
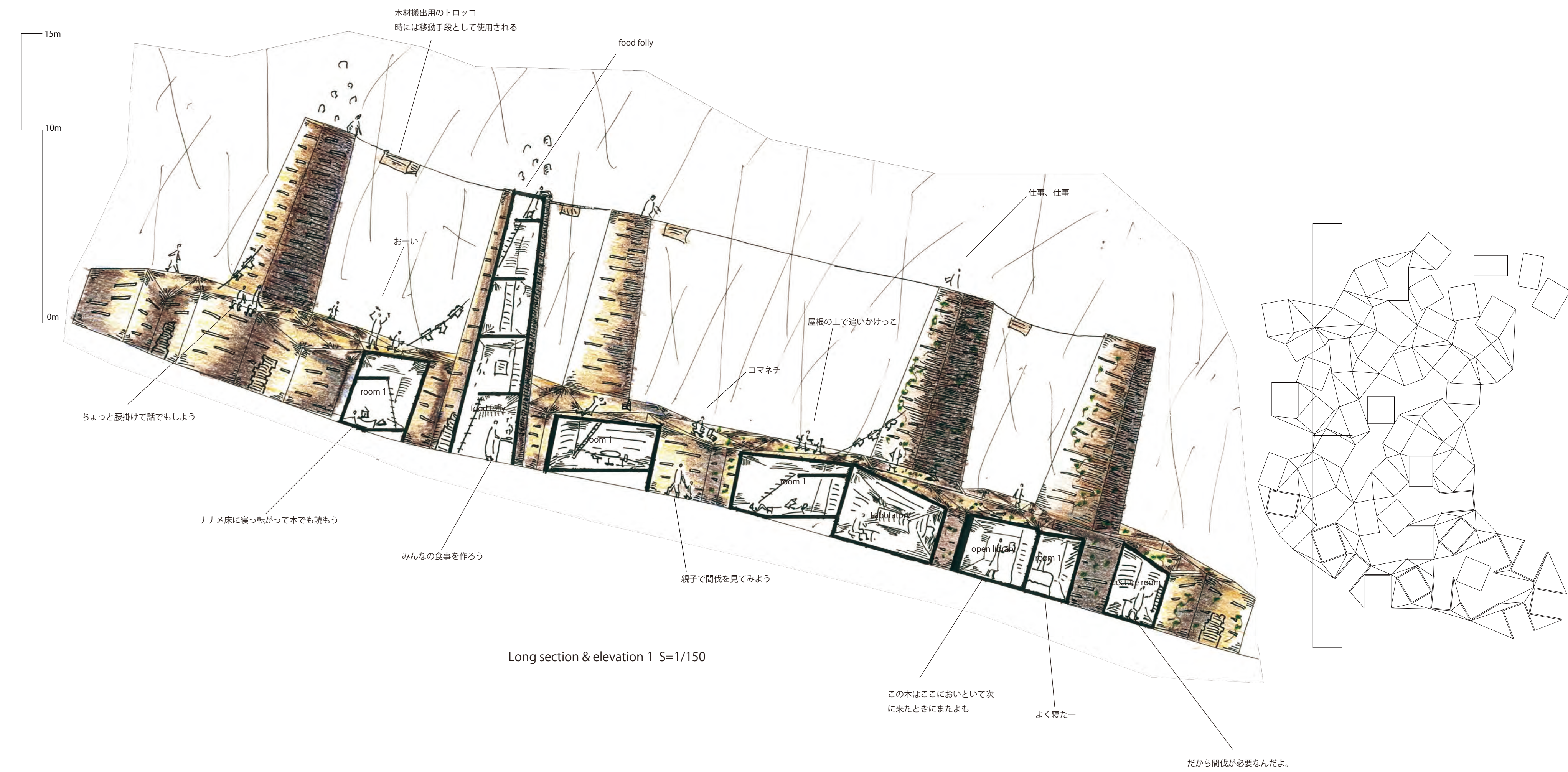


反転した後の床は山の傾斜を生かした「ナナメ床」とし、ゆっくりと壁にもたれたり、床に寝そべったりしながら図書を楽しめる場所となる。

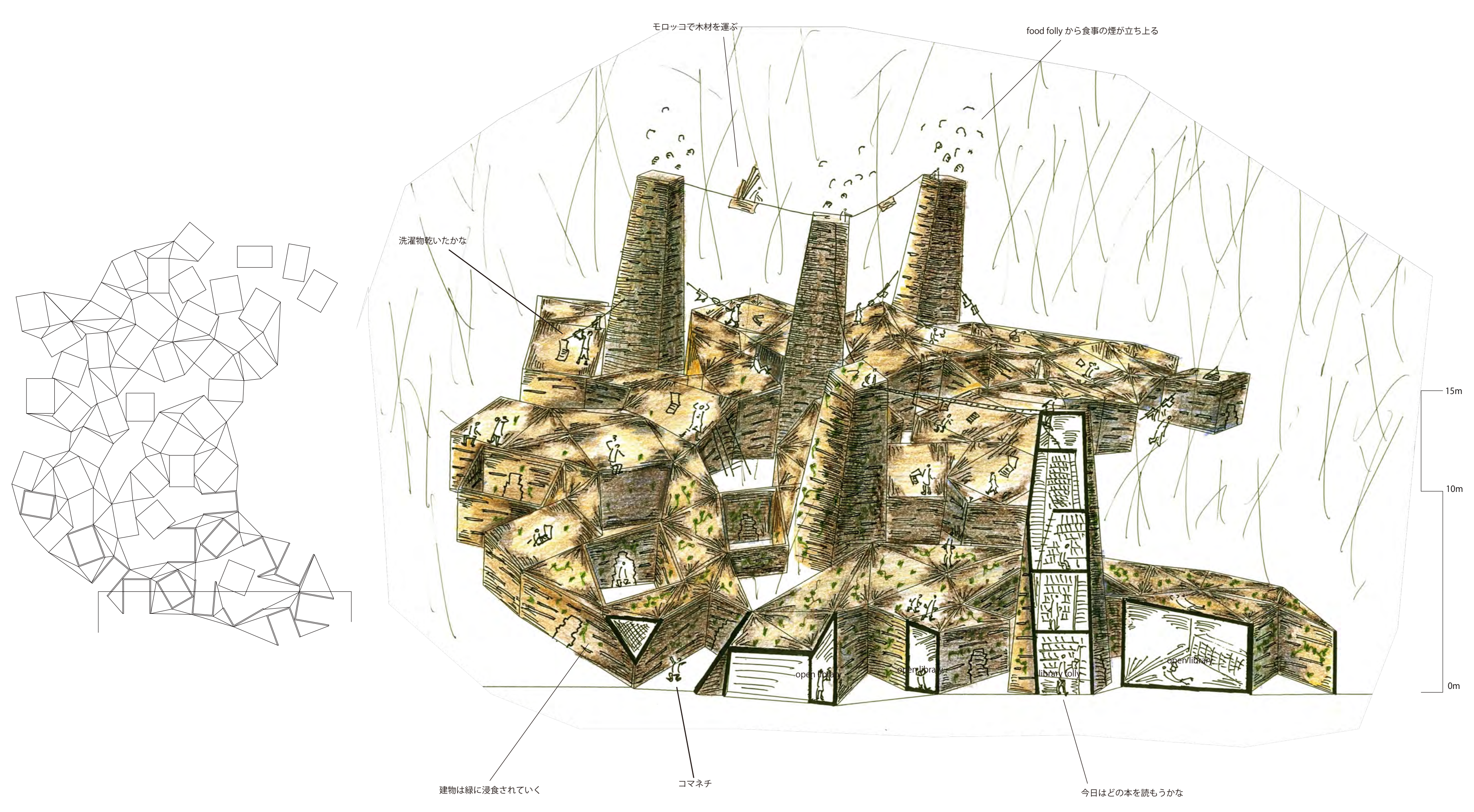
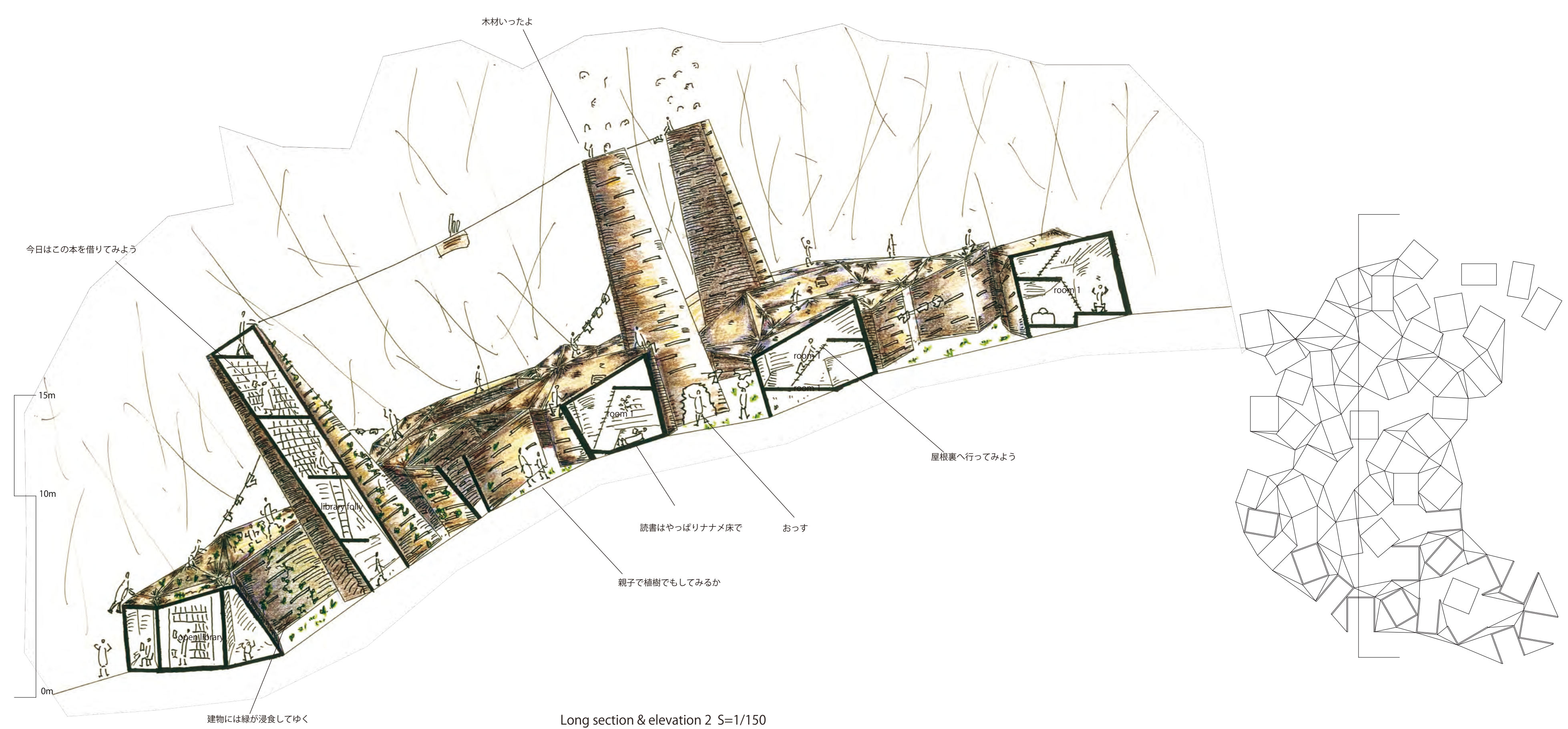


いびつな空間には、それぞれの場所が生まれる。

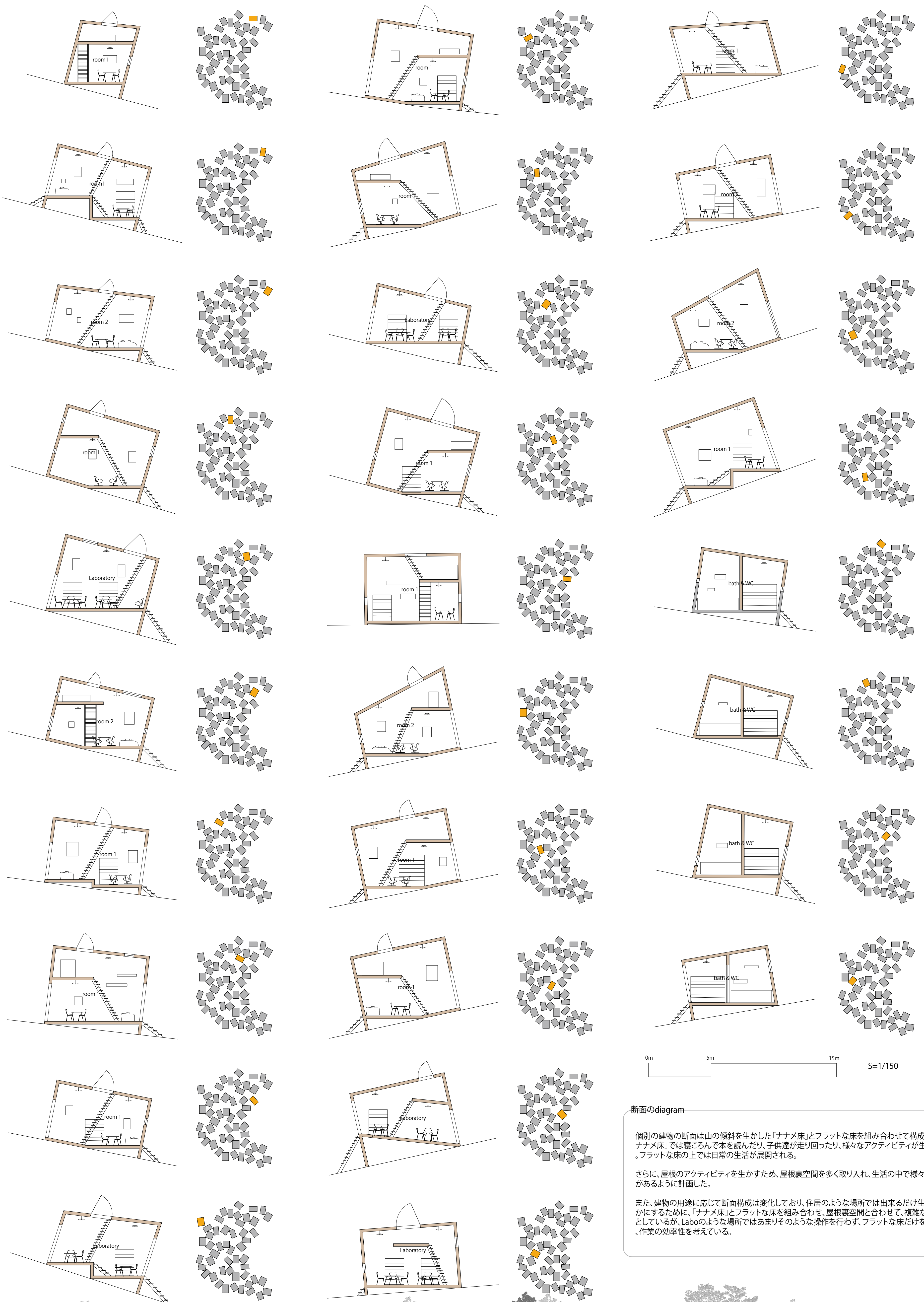
Phase 3 section & elevation 1



Phase 3 section & elevation 2



Phase 3 Each Section Plan



断面のdiagram

個別の建物の断面は山の傾斜を生かした「ナナメ床」とフラットな床を組み合わせで構成した。「ナナメ床」では寝ころんで本を読んだり、子供達が走り回ったり、様々なアクティビティが生まれる。フラットな床の上では日常の生活が展開される。

さらに、屋根のアクティビティを生かすため、屋根裏空間を多く取り入れ、生活の中で様々な変化があるように計画した。

また、建物の用途に応じて断面構成は変化しており、住居のような場所では出来るだけ生活を豊かにするために、「ナナメ床」とフラットな床を組み合わせ、屋根裏空間と合わせて、複雑な空間としているが、Laboのような場所ではあまりそのような操作を行わず、フラットな床だけを使用し、作業の効率性を考えている。





Scene Photos





Long Ring Long Land。

つづいてく。

Long Ring Long Land。

人・建築・森のあるべき姿。